

事故削減プログラム始動

大川運輸 安全レベル向上めざす



チームごとに分かれ「どんな危険が潜むか」を発表

【茨城】大川運輸（大川功社長、茨城県鹿嶋市）は今年度の「事故削減プログラム」をスタートさせた。研修会とドライバーコーナー（DR）映像を活用した個別指導を組み合わせた総合的な年間事故防止対策で、昨年度に続き2回目。6月29日のドライバー研修会を皮切りに、研修会を年3回、個別指導を毎月行い、全社的な安全レベルの向上を図る。

29日の研修会は、採用から1年が経過した2年次ドライバーと事故惹起（じゃつき）者、運行部門の管理職が対象。まず、日本交通事故鑑識研究所（大慈弥拓也社長、東京都大田区）の長森紀紘・交通安全アドバ

イザーが、DRの事故映像を基に防衛運転について解説した。

続いて、5人のチームに分かれてKYT（危険予知トレーニング）を実施し、「どんな危険が潜むか」「どんな運転をすれば回避できるか」を話し合い、発表。東京都内の運送会社の管理職2人と静岡県トラック協会（大須賀正孝会長）の職員3人も見学に訪れた。今年度は研修会の対象者を広げ、あと2回程度開く計画。

また、車両に装着したDR映像を日本交通事故鑑識研究所が解析し、危険運転の動画と専門家のコメントで構成する評価シートを作成。運行部門の管理職がシ

とらつく 関東

東京支局

TEL 03(3221)2345
FAX 03(3221)2348

夏期労災防止よびかけ

陸災防 群馬 安全管理対策を

【群馬】陸災防群馬支部（三浦文雄支部長）は6月26日、陸災防指導員会議を開催し、第12次労働災害防止計画に基づいて、交通・労災事故防止と当面の活動方針について協議した。

石井雅博事務局長が「陸上貨物運送業界の昨年1年間の労災は微減となったものの、ことしに入ってから5月末時点でプラスに転じた。

群馬労働局労働基準部健康安全課の寺村裕司課長は「経営の厳しさが労務管理や安全管理面で悪影響を与えないように注意を払って欲しい」と呼び掛けた。また、大村悦男・地方産業安全専門官は、労災事故発生状況などについて説明。陸

に活用し、毎月ドライバーを個別指導する。指導対象者は現在事故惹起者が中心だが、今後対象を拡大。階層別の研修や毎月の安全会議にも役立てたい考え。

大川運輸では2009年からDRを導入し、320両に取り付けているほか、DR機能付きデジタルタコグラフも100両に装着している。

こうした取り組みを通じて、14年度に交通事故・労働災害件数を11年度比40%減の40件以下とすることを目指す。

オープンした新社屋と物流センター（右）

高崎インターチェンジ（I.C.）から1.5キロ。昨年6月に群馬県企業局が分譲していた敷地を、本社が取得し、この1.5キロ四方を囲むように、本社と

動にランも自織）から全教転車導め、い）ツク

本社と物流センター竣工

型運送